

田根 剛 | 未来の記憶 Archaeology of the Future — Digging & Building Tsuyoshi Tane | Archaeology of the Future — Digging & Building

拝啓 爽秋の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は東京オペラシティアートギャラリーの
展覧会活動に対して、格別なご高配、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当館では、2018年10月19日〔金〕より12月24日〔月〕まで、「田根 剛 | 未来の記憶 Archaeology of
the Future—Digging & Building」を開催します。

フランスを拠点に世界各地でプロジェクトを進め、現在幅広い注目を集める気鋭の建築家・田根 剛。20代の
若さでドレル・ゴットメ・田根 (DGT.) として〈エストニア国立博物館〉の国際設計競技に勝利し、選出から
約10年の歳月を経た2016年秋に同プロジェクトが竣工を迎えるなど、国内外の注目がさらに高まっています。
また、2012年に行われた新国立競技場基本構想国際デザイン競技 (ザハ・ハディド案選出時) に参加し、11
人のファイナリストに選ばれた〈古墳スタジアム〉は幅広い層に知られるきっかけとなりました。2017年の
DGT. 解散後は Atelier Tsuyoshi Tane Architects をパリに設立し、活動の場をさらに広げています。

このたび東京オペラシティアートギャラリーと TOTO ギャラリー・間は、田根剛の展覧会を同時期に開催しま
す。「Archaeology of the Future—未来の記憶」を共通のテーマにしなが、田根の密度の高いこれまでの活
動と、建築は記憶を通じていかに未来をつくりうるかという挑戦を、ふたつの会場で紹介します。東京オペラ
シティアートギャラリーでは「Digging & Building」と題して、場所をめぐる記憶を発掘し、掘り下げ、飛躍
させる手法と、そこから生み出された〈エストニア国立博物館〉〈古墳スタジアム〉といった代表作や最新プ
ロジェクトを大型の模型や映像などによって体感的に展示します。TOTO ギャラリー・間においては「Search
& Research」にもとづき、建築における思考と考察のプロセスが展開され、田根のすべてのプロジェクトで
実践されている「Archaeological Research (考古学的リサーチ)」の方法論を展覧します。ふたつの展覧会は、
場所の記憶をさまざまな角度から分析することで新たな系をつくり、未来につながる建築へと展開させていく、
田根の探求と実践のプロセスを総合的に提示しようとするものです。

記憶は現在を動かし、未来をつくる —— この信念にもとづいた田根の創造は、都市の担い手である私たち一
人一人にとって建築の持つ力や使命、未来への可能性を考えるきっかけとなるでしょう。

つきましては「田根 剛 | 未来の記憶 Archaeology of the Future—Digging & Building」をぜひご紹介いただ
きたく、周知・告知活動にご協力賜りますようお願い申し上げます。

■本リリースに関するお問い合わせ

東京オペラシティアートギャラリー 【展覧会担当】野村 【広報担当】吉田

Tel 03-5353-0756 / Fax 03-5353-0776 / e-mail ag-press@toccf.com

2018.09.17

2006年、エストニア文化庁は同国の歴史を展観する新しい国立博物館の設計競技の結果を発表しました。108案の中から選ばれたのは Dorell. Ghotmeh.Tane/Architects、それぞれ別の建築事務所で働いていた若者3人が設計競技応募のために結成した建築家グループでした。敷地はソ連時代の旧軍用施設。彼らの応募案は、軍用滑走路の跡地と建物を連続させることで、大地に刻まれた歴史を建築に引き継がせるものでした。

実績のない若手建築家に国家的なプロジェクトを託すこと、占領時代の「負の遺産」を想起させる設計案を採択したことで賛否両論が巻き起こりましたが、エストニアは「Memory Field」と題されたこの案を是として支持しました。「場所の記憶」から建築を考えるという、以降一貫して田根が持ち続けるテーマは、このときから始まったのです。

一夜にして世界的な注目を集めることになった26歳の田根は、仲間とともに事務所を設立し、〈エストニア国立博物館〉の実施設計に取りかかるとともにさまざまなプロジェクトを手掛けるようになります。その仕事は建築設計はもとより、舞台美術、展覧会や国際見本市の会場デザイン、既存の建築のリノベーションなど多岐にわたりました。この時期には、東京オペラシティアートギャラリーの「新井淳一の布 伝統と創生」展会場デザインで、当館とも協働しています。建築の分野ではすでに知られる存在となっていた田根がさらに注目を集めたのは、2012年の〈新国立競技場〉国際デザイン・コンクールでした。11名のファイナリストに選出された〈古墳スタジアム〉は、後にさまざまな議論を呼ぶことになったこのプロジェクトに果敢に挑んだ姿勢や、明解なアイデアとフォルムで人々の心に訴えかけ、幅広い層に知られることとなりました。

2014年には初めて設計した住宅〈A House for Oiso〉、2018年には〈Todoroki House in Valley〉が竣工しました。ふたつの住宅に共通しているのは、田根がキャリアの最初期から持ち続けている「場所の記憶」についての探求と、それを建築というかたちあるものへと展開させる手法です。「場所」とは固有であり、そこには古代から現代にいたるまでの記憶—個人的なものであれ社会的なものであれ—が存在すること、それらを丹念に発掘／分類／調査／再構築することで、記憶を未来につなげる役割を果たそうとするのが田根の建築です。その手法はまさに Archaeological（考古学的）なアプローチといえるでしょう。〈エストニア国立博物館〉の竣工を機に Atelier Tsuyoshi Tane Architects としてあらたなスタートを切った田根の、さらなる飛躍が期待されます。

*掲載図版クレジット

01. 〈エストニア国立博物館〉タルトゥ 2006-16
photo: Eesti Rahva Muuseum / image courtesy of DGT.
02. 〈新国立競技場案 古墳スタジアム〉東京 2012
image: courtesy of DGT.
03. 〈A House for Oiso〉神奈川 2014-15
photo: Takumi Ota / courtesy of DGT.
04. 〈Todoroki House in Valley〉東京 2017-18
photo: Yuna Yagi
05. 〈Todoroki House in Valley〉東京 2017-18
photo: Yuna Yagi



01



02



03



04



05

【展覧会の構成】

* 場所の記憶を発掘する

本展の冒頭の gallery 1では、田根がどのプロジェクトにおいても実施するイメージとテキストを使ったりサーチの手法を、天井高6mの空間を使って展示します。場所から連想される膨大なイメージを壁面に貼り、分類／調査を繰り返すことで思考を整理していくこの方法を田根は Archaeological Research (考古学的リサーチ)と呼んでいます。本展では、「記憶」という概念そのものをリサーチする実験空間として体験していただきます。

* 代表作9作品の空間展示

〈エストニア国立博物館〉や〈新国立競技場案 古墳スタジアム〉をはじめ、現在進行中のプロジェクトなど9つの作品を、当館 gallery 2の展示室全体を使って空間的に展示します。各プロジェクトは1/10から1/100のスケールの大型模型で紹介され、全長10mにおよぶ〈エストニア国立博物館〉は身体的な空間体験を可能にします。いずれのプロジェクトにも Archaeological Research の過程で集められたさまざまな資料やオブジェクトが伴い、ひとつの建築ができあがるまでの思考をたどる手掛かりとなるでしょう。また〈エストニア国立博物館〉については、設計競技に提出された模型の実物が展示されます。

* 建築の映像表現

「建築は未来の記憶をつくること」という田根の思想に共鳴したアーティストの藤井光が、各プロジェクトの映像制作で参加します。歴史や記憶の生成に着眼し、現代社会の諸事項を再検証する作品で知られる藤井が、竣工プロジェクトおよびパリの田根のアトリエを訪問し、撮影を行いました。〈エストニア国立博物館〉は、2画面の大型プロジェクションで展示します。場所の記憶を継ぐ建築とそこに住まう人が、あらたな記憶を重ねながら未来をつくっていく姿をご覧ください。

* 全プロジェクトをタイムラインで紹介

短いながらも密度の高い2004年以降100作品以上の田根の全活動を、30mの corrido ールを使ったタイムライン（年表）として総鑑します。

* 掲載図版クレジット

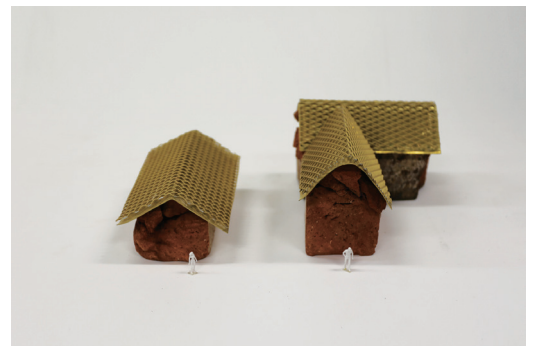
- 06. 〈Archaeological Research〉 2018
- 07. 〈(仮称) 弘前市文化施設設計業務〉 弘前 2014-
- 08. 〈(仮称) 弘前市文化施設設計業務〉 弘前 2014-
- 09. 〈time is TIME〉 ミラノ 2016
photo: Hiroba / courtesy of DGT.



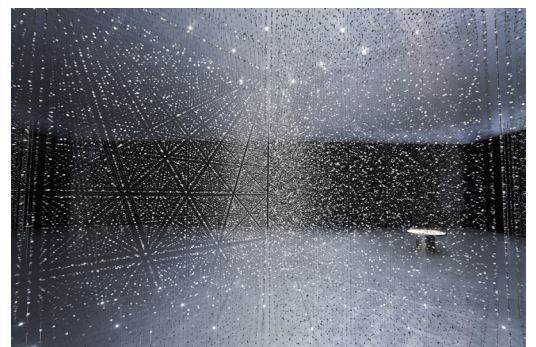
06



07



08



09

『Archaeology of the Future—未来の記憶』

まだ誰も見たことのない、経験したこともない、想像すらしたことのない、そんな建築をつくりたいと思っています。でもそれは奇抜な未来型の建築とは違う、場所の記憶からはじまる建築、そんな途方もないことを考えています。

私はいつも考古学者のように遠い時間を遡り、場所の記憶を掘り起こすことから始めます。そこでは今日の世界から忘れ去られ、失われ、消えてしまったものに遭遇し、それらを発見する驚きと喜びがあります。その時、記憶は過去のものではなく、未来を生み出す原動力へと変貌するのです。

場所には必ず記憶があります。建築はその記憶を継承し、未来をつくることができるのです。未来は必ず訪れます。建築はこの時代を動かし、未来のその先の記憶となります。まだ誰も見たことのない未来の記憶をつくること、建築にはそれが可能だと信じています。

田根 剛



photo: Yoshiaki Tsutsui

田根 剛 (たねつよし)

建築家。1979年東京生まれ。Atelier Tsuyoshi Tane Architects の代表としてフランス・パリを拠点に活動。現在ヨーロッパと日本を中心に世界各地で多数のプロジェクトが進行している。主な作品に〈エストニア国立博物館〉(2006-16)、〈A House for Oiso〉(2014-15)、〈LIGHT is TIME〉(2014) (以上 DGT.)、〈(仮称) 弘前市芸術文化施設〉(2017-) など。フランス文化庁新進建築家賞 (2007)、フランス国外建築賞グランプリ (2016)、第67回芸術選奨文部科学大臣新人賞 (2017) など受賞多数。2012年よりコロンビア大学 GSAPP で教鞭をとる。

【開催概要】 東京オペラシティ アートギャラリー

展覧会名 田根 剛 | 未来の記憶 Archaeology of the Future—Digging & Building
Tsuyoshi Tane | Archaeology of the Future—Digging & Building

会期 2018年10月19日 [金]—12月24日 [月]

会場 東京オペラシティ アートギャラリー

開館時間 11:00-19:00 (金・土は20:00まで/最終入場は閉館の30分前まで)


休館日 月曜日 (12月24日は開館)

入場料 一般1200 [1000] 円/大・高生800 [600] 円/中学生以下無料

* 同時開催「収蔵品展064 異国で描く」、「project N73 中村太一」の入場料を含みます。収蔵品展入場券200円 (各種割引は無し) もあり。

* [] 内は15名以上の団体料金。障害者手帳をお持ちの方および付添1名は無料。割引の併用および入場料の払い戻しはできません。

お問合せ 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

ウェブサイト <http://www.operacity.jp/ag/exh214/>  <https://www.facebook.com/tocag>

主催 (公財) 東京オペラシティ文化財団

特別協賛 NTT 都市開発 (株)

協賛 シチズン時計 (株) / (株) 大林組

協力 キヤノン (株) / キヤノンマーケティングジャパン (株) / 日本航空 (株)

後援 在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ日本 / 駐日エストニア共和国大使館

助成 (公財) テルモ生命科学芸術財団

■本リリースに関するお問い合わせ

東京オペラシティ アートギャラリー 【展覧会担当】野村 【広報担当】吉田

Tel 03-5353-0756 / Fax 03-5353-0776 / e-mail ag-press@toccf.com

【2館連携企画】 TOTO ギャラリー・間 情報

展覧会名 田根 剛 | 未来の記憶 Archaeology of the Future—Search & Research
Tsuyoshi Tane | Archaeology of the Future—Search & Research

会期 2018年10月18日 [木] —12月23日 [日・祝]
会場 TOTO ギャラリー・間
開館時間 11:00—18:00
休館日 月曜・祝日 (11月3日 [土]、12月23日 [日] は開館)
入場料 無料

主催 TOTO ギャラリー・間
企画 TOTO ギャラリー・間運営委員会
(特別顧問=安藤忠雄、委員=妹島和世/千葉 学/塚本由晴/エルウィン・ピライ)
後援 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本/駐日エストニア共和国大使館/
(一社) 東京建築士会/(一社) 東京都建築士事務所協会/
(公社) 日本建築家協会関東甲信越支部/(一社) 日本建築学会関東支部
協力 シチズン時計 (株) /日本航空 (株)

[アクセス]

〒107-0062 東京都港区南青山1-24-3 TOTO 乃木坂ビル3F
東京メトロ千代田線乃木坂駅3番出口徒歩1分
TEL: 03-3402-1010 <https://jp.toto.com/gallerma>

展覧会に関するお問合せ

TOTO 株式会社 東京広報グループ TEL 03-6836-2025
広報担当: 森川光子 (mitsuko.morikawa@jp.toto.com)、阿部園子 (sonoko.abe@jp.toto.com)

[関連書籍]

『TSUYOSHI TANE Archaeology of the Future』
著者: 田根 剛
発行日: 2018年10月
発行: TOTO 出版 (TOTO 株式会社) <https://jp.toto.com/publishing>